令和6年度 第4回諫早市社会教育委員会議 議事録

日 時：令和7年3月14日（金）15：30～17：00

場 所：高城会館 4階 第6研修室

出席者：【社会教育委員】

平山 仁 委員、西山敏明委員、池田雅英 委員、石丸民世委員、
松山 綾委員、橋本克彦委員、高戸幸恵 委員、西川 亨 委員、

【事務局】

石部邦昭（教育長）、竹島健吾（生涯学習課長）、藤山隆一郎（同課長補佐）
山下美喜夫（同参事補・指導主事）、松山 優希（同一般職）

議 題：（1）令和7年度社会教育関係事業の年間計画について

（2）次期社会教育委員会議に向けて

①グループワーク

②発表

（3）その他

— 開会 —

— 教育長挨拶 —

（生涯学習課長補佐）

それでは、ここからの進行を平山議長にお願いいたします。

（議長）

皆さんこんにちは。

温かくなったと思っている今日最近ですけれども、明日はなんかまた少し寒くなるという
ことで、本当に三寒四温というのはそのとおりだなと思います。

先日は、中学校の卒業式が行われたということで、次に上がっていく子どもたちが良い気
持ちで次の学校に行くようなそういう諫早であればいいなと思っております。

今日私達の次の皆さんにこういう課題を様々な話をしていきながら、この会を進めてい
きたいと思いますので、本日議題は提示されておりますように二つ予定をされております。

1つ目が、令和7年度社会教育関係事業の年間計画、2つ目が地域社会教育委員会会議に
向けてということになります。

それでは進めます前に、本日の議事録署名人の確認ですが、年度初めに順次皆さんにやっ
ていただくということでご了解いただいておりますので、本日の議事録署名につきましては
は、委員にお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。

— 委員了承 —

はい、ありがとうございます。

それでは委員に了承いただきましたので、本日の議事録署名人を確定したということで1つ目の中に入っていこうと思います。説明を事務局の方をお願いしたいと思います。

— 生涯学習課課長補佐 資料説明 —

(議長)

はい、ありがとうございます。

それでは今説明いただいた分で、ちょっと2つに分けたいと思います。

1つ目が質問やご意見などの部分、2つ目が皆様一番最初に社会教育委員になられたときに確認されたと思いますけれども、補助金については、社会教育委員会議において意見を聞かなければならないという項目がございますので、これはちょっと置いときまして、1つ目の今説明があった分について、皆さんいかがでしょう。

ご質問とかご意見とかあれば、特に増額の説明なんかもありましたし、これまでずっといただいたんですが、どなたかちょっと口火を切っていただければ。

(生涯学習課長)

よろしいですかね。

右下の方に生涯学習課の重点施策ということで、学校と地域の交流促進、それから3つ目に子ども体験活動の推進とありますけど、これについて若干説明させていただければと思います。

まずこの3つ目の子ども体験活動推進については、真ん中の一番上の体験活動、こちらが、よくこの会議の場でも議題に当たって話の中にある通学合宿に対しての補助金がここに入っております。総額120万円ということですが、これまでより10万円の増額でいただいております。少し補助の中身を精査しながら、基準的なものを見直したいなという風に思っております。

それから、もう1つ地域学校協働活動推進事業は、これまで28万円程度の予算だったのが約400万円とかなりの増額になっております。

これは、本会議の場で話をしておりまして、地域と学校の連携に係る地域地域学校協働活動であったりとか、それを行うための地域の学校協働活動本部の設置とかですね。そういうものに対しての費用を盛り込んでおります。これに対してはちょっと力を入れて、次年度取り組んでまいりたいと考えております。

(議長)

ありがとうございます。

今の課長の方から追加の説明があったところです。

特にまた関連で、委員の皆さんからもお尋ねがあると思いますが。

委員お願いします。

(委員)

私もちょうど、今地域学校連携推進事業のことについてお聞きしたいと思ったんですけど、コミュニティスクールとか、そういったことにも関係してくるのかなというふうに思っているんですが、差し支えない程度で、学校単位としてどの程度、来年度以降に何か動きがあるとか、運営協議会を立ち上げていこうとか、何かそういったことがあるのか教えていただければと思います。

(生涯学習課参事補)

お答えいたします。

ちょっと明確な数字が今のところわからないのですが、現時点で令和6年度では8学校で6協議会が、コミュニティスクールになっています。

令和7年度は新たに立ち上がる場所も含めまして、15ぐらいになるのではないかなと思っています。その程度の数ぐらいの学校が、コミュニティスクールに移行しようと考えてらっしゃるようです。

(教育長)

追加なんですけど、私、校長会とか副校長教頭会等でコミュニティスクールを推進してほしいということを訴えております。今の努力義務ということになっているんですね。

ですから、将来的には全ての学校が、全国の全ての学校がそうなるのではないかなということを考えると、諫早市もできるだけ早期にコミュニティスクールに移行するというのも必要なことじゃないのかなということで促しておりますので、促進されていくのではないかなというふうに思っております。

ただし、無理強いはできませんので、納得してもらいながら進めていただきたいということをお考えおるところです。

(議長)

ありがとうございます。

委員いかがですか。

(委員)

ちょっと気になったのは、学校関連の既存のものをそれぞれの組織の名前を変えて、すり替えただけでコミュニティスクールに行こうというようなあり方では、結局何も意味がないということをご理解いただいた上で、執行された方がいいのではないのでしょうかというようなお話をしたんですね。

ただ、せっかく予算化もできていますし、その時にふと思ったのが、やっぱり管理職の姿勢云々によって大きく変わってくるので、管理職がどの程度の認識でいるかといいますか、うちはコミュニティスクールになったよというだけで済まそうとしてるのか、それともこういう意味合いがありますよということを、しっかりと保護者とか地域に流して、共同理解を、理念を共有して行動しようとしてるのかということについてはですね、大きく違ってくるので、そこら辺も気になったところです。

大丈夫かなと不安を抱えながら、移行したいとは思っているから「はい。やります。」と言って、来年できるようなことなのかという話をしたところでした。

すみません。余計な話ですけど、せっかく予算を上げていただいて、その適切な運営ができればいいなというふうに思っているところです。

(教育長)

今言われたことは一番大事なところだと思いますので、結局のところただ形だけ移行したのではあんまり意味がないのかなと思います。

なぜ必要なのか。どういうことができるのか。そういうことが共有されないといけないなと思って、今力を入れているとございます。

(委員)

先ほど教育長からもありましたように、教育長さんは、校長研修会の中で今年度の中でも、数回コミュニティスクールの推進については投げかけていただいております。

本当にありがたいことだなと私自身は思っていて、自分の学校も、昨年度4月から既にコミュニティスクールになっているところに入りました。といいましても、その直前の3月に発足したばかりだったんですけれども、自分の代でスタートして、この2年間を振り返ってみて、先日今年度の最後の学校運営協議会を開いたところなんですけど、学校支援会議から学校運営協議会に関しては、私自身も少し反省なんですけどけれども、やはり学校運営協議会は、その委員の皆さんでどうやって学校を作り上げていくか、今後の子どもたちのためにというのを真剣に話し合う、未来に向けての場ですよということを、私ではなくて、嬉しかったのが、委員の育友会長さんだったんですけれども、その方から言っていただいておりますね。

つまり、これまでただ学校支援会議で大体学校の行事の紹介だとか、学校評価の結果の紹介だとか学力とかですね、生徒の様子や報告が中心になってたような反省があるんですけど、先ほどの育友会長さんが、地域と学校の先生が一緒になって子どもたちを、学校をどう作っ

ていくか、ここはそういう会ですよということを最後に関係者に強く言っていたので、来年度はもっともっとそういう方向で進んでいきたいなと今思っているところで、やはり橋本委員が言われたように、管理職全体がまだちょっと十分に勉強しきれてないところがあるなと思っています。

(議長)

この後、また次期社会教育委員の課題についてもですが、今のまとめでいくと、例えば私どもが見学をさせていただく、あるいは先ほどの橋本委員の意見からいくと、もう出来上がったところばかりではなく途中のところとかですね。

そういうところに見学とかも含めて、私達ももう少し見ていかなければいけない、市長時代というふうはこの内容は捉えて今予算の説明ということで、これちょっと締めたいと思います。

別の中身について、事務局に質問を何かあればいかがですか。

(委員)

よろしいですか。

先ほどの、地域と学校の連携推進事業のところ質問しようかなと思うんですけど、昨年度まではいくらだったのかなというところで、28万円から次年度は400万円ということで、かなりの増額だと思うんですが、この増額によって今までできなかったことができるようになったのかっていうのを、もしよかったらお聞かせいただければなと思います。

(生涯学習課参事補)

お答えいたします。

増額になったものは、大きくは地域学校協働本部を立ち上げ、その運営委託料というものが1つです。

委託料の支払いは、地域子ども教室、地域未来塾を実施していただいているところから、令和7年度はスタートをしたいと考えています。そこを本部として位置付け、委託料をお支払いして、これまで私達と1対1で消耗品などの支給をしていたものを、ご自身たちで少し幅広くできるようなそういうことができればと思いながら増額をいたしました。

あと1つは、大きなところで、地域学校協働推進員というものを配置したいというところで、今、地域コーディネーターが各学校にいらっしゃるところで、地域コーディネーターの中からこちらで3校程度推進員というものを委嘱をさせていただいて、そこに推進員としての活動にかかる謝金という形で1,480円/時間をお支払いしようとするものです。

(議長)

わかりました。

また来年度の初め、来年度の会議のときに具体的に少し説明があると思いますし、校長会等でもっと具体的な説明があると思いますので、よろしいでしょうか。

西川委員をお願いします。

(委員)

現状、6校でコミュニティスクールがあると言われましたが、その中で、推進員がおられて、学校の校長教頭主導じゃなく、地域主導でコミュニティスクールをやっている学校はどのくらいあるんですか。

(生涯学習課参事補)

今のところ、こちらで委嘱をした人を中心に推進させていただきたいと思っているので、まだ、令和6年度の時点では委嘱させていただいた方はおりません。

あと、真津山地区も今度地域コーディネーターをお願いするという形で、新しく地域コーディネーターになっていただく方を、校長先生中心に選んだり、お話をしたりっていうことをしているところです。

(委員)

新たに令和7年度にコミュニティスクールになった場合は、地域コーディネーターを置いていくということですかね。

(生涯学習課参事補)

今ちょうど、来年度の委員を学校協議会の方に各学校からですね、挙げていただいているその最中だと思います。

その名簿の項目のところに、地域の人欄に学校関係者、地域学校協働活動推進員ってような項目のところがあるんですけども、今のところそれが地域コーディネーターとっていただければという形で挙げていただいているところです。

(議長)

この場では、予算についての確認をしているのと、それに対して意見を求めるものですので、次年度の中身として、このコミュニティスクール、諫早市としてとしてやっていきたいと思いますというスタンスがあるわけだから、もう少しこれについては時間を取って説明するなり、意見を求めたり、私達もそれについてもう少し考える時間を、次回取りましようということでもまとめておいていいですか。

(委員)

わかりました。

(議長)

他になれば、2つ目の社会教育委員がこの補助金について、意見をということで確認をしたところなんですけども、本来ならば、その補助金を受けている関係の団体、PTA、婦人会とか直接の関わりがありますので、退席でもしなくちゃいけないんでしょうが、そうするとこの会議の席が半分になってしまうので、このままにして会議を続けます。皆さんはいかがでしょう。特に実際にいただいている団体として、もっと増やせとかですね。減らせとは誰も言わないと思いますが、そういうことも含めまして意見について何かあれば特に左下の部分ですね。

何か補足があればお願いします。

婦人会はよろしいですか。

(委員)

厳しい時代に、またいただけるのが嬉しいんですけど、婦人会としては託児講座に入らせていただいたり、学校の授業に入らせていただいたりしているので、このままいただけることについては嬉しいです。決して増やしてほしいとは言えません。

この時代に、婦人会としては十分いただいているかなと思っています。

(議長)

ここの場ではしっかり記録が残りますが、いいですか。

市P連はいかがでしょう。

(委員)

市P連も、増やせとか本当に思っていないとかありがたく思っています。

いろんな方に支えられて、子育てができていっているっていうのも、もっと保護者に感じてもらえるように、私達からもいろんな説明とかお話をしたりしていきたいと思っています。

(議長)

青年会議所はいかがですか。

(委員)

私たちも、事業を行うための補助としていただいています。

せっかくいただくので、内容について十分協議しながら、よりよい事業を行っていこうと思えます。

(議長)

ありがとうございます。

諫早市青少年健全育成会はいかがですか。

(委員)

連絡協議会といたしましてはですね中身は生涯学習課の方々にどのような活動をしているか、毎年報告をしていただいて、各健全育成会の予算、決算を提出していただいて、それで中身を確認して、平均10万円くらいですかね。どのくらいになりますか。

(生涯学習課課長補佐)

旧諫早市諫早地域の育成会については10万円、旧5町には15万円をベースとして支給しており、事業量の多い少ないで差はありますが、その合計が251万円となっています。

(委員)

その補助金をいただいて、各地区は子ども教室なり、通学合宿などいろいろなところの女性として出しているところもあります。

ですから、補助金だけではギリギリの状態でありますので、各地域の核世帯に各1世帯当たり100円とか150円とか徴収して、それで活動費に充てているという現状です。

(議長)

ありがとうございます。

今当事者団体として意見を伺いましたが、委員いかがですか。

(委員)

補助金があってもいいとは思いますが、基本的に私達の図書ボランティアっていうのはボランティア活動ですので、ちょっとでも補助金が発生してしまうと、仕事になりかねないので、今のままでいいです。

(議長)

はい、ありがとうございます。

それではここに挙げてある補助金の額としては特段意見でなく妥当だということで、この場のまとめとしてよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、議題1については特によろしいでしょうか。次回以降2番目の内容としても少し関係のあることがコミュニティスクールの件とか、市青少年活動の件とかも出ておりますけれども1番目はよろしいでしょうかね。

それでは議題2に入りたいと思います。

議題については、皆さんの方にご案内を差し上げたときに一緒に書いておりましたけれども、ぜひ時期社会教育委員会議の方に取り上げてほしいことというようなことでありました。

考えてみますと、コロナの後、復活したのが必ずしも元に戻っている状況ではないという状況の中、地域の方も各種の団体の方も、なかなか高齢化や次の跡継ぎ不足、コロナの前まで戻っているというようなところもなかなか難しいということも聞いております。

そこで大きく分けて2つぐらいでしょうかね。

1つは時期社会教育委員会議で取り上げて解決していきたいこと。

課題の解決の方向の件です。

2つ目がプラスの評価をいいますかね、今後も残していくような話、事業などを、まずそういうふうな1つの視点ぐらいでまとめて話をしていきたいというふうに思っております。

今この時計で16時5分ぐらいですから、約30分を目安にお願いします。

2グループに分かれていただいて、先ほど言いました2つの観点みたいな感じです。

全員で話をすると、なかなか思っていることが言えないというのがありますので、少し小さなグループにわかれて意見を出していただき、事務局の方にもそれぞれ入っていただいて記録を取っていただくということによろしいですか。

— グループに分かれて討議 —

(生涯学習課参事補)

それでは、私たちのグループで話し合われたことについて、発表いたします。

大きく3つのことについて意見が出ました。

1つ目として、保護者の意識改革が必要ではないかということです。

飯盛子ども未来塾では、隣接する学童クラブ「かたらんね」と交流することで、子どもの居場所づくりにつながったり、地域でも子どもをみているよという保護者への働きかけ、になるのではないかという意見がでました。

また、地域子ども教室や通学合宿などの協働活動をPTAの広報誌に載せてもらうことで保護者への周知も図れるとともに、保護者の方に対して運営の協力依頼もできればいいなという意見も出ました。

さらに、保護者との子育てにかかる理念の共有も必要だろうということも出ました。この考え方こそまさにコミュニティスクールの考え方であり、今後必要なことであるということでした。

2つ目に、大人の取り組みが大事であろうということです。

現在の子育てについては、家庭の教育力が低下していると言われておりますので、子どもたちが色々な大人にまみれて子が育つという思いを、家庭、地域の大人がみんなで作ることが大事だろうという意見が出ました。

また、退職校長会の方々も、地域の大人として「何かしたい」「自分たちに何かできないか」いうことを本気で考えてくださっているということなので、今後は力強いサポーターとして協力してくださるのではないかとということです。

3つ目、今地域で行っていること、取り組んでいることに肯定感を持つということです。

地域の方々が、それぞれの地域で行ってくださっている取り組みは、子どもたちの居場所づくりに一役かっていることは誰もが認める事実です。その取り組みに関わってくださっている地域の方々一人一人に、やっていることはとても大事なことである、大きなことであるという思いを持っていただき、必要なことを我々、地域はやっているんだと感じていただくことが大事ではないかということが出ました。

(生涯学習課課長補佐)

こちらのグループで出たことの発表をいたします。

まず、コミュニティスクールの推進という観点で、学校運営協議会についてもっと知るといことで、実際に学校運営協議会の見学に、社会教育委員会として行ったりと、まずは知ることが大切ということ。あと地域と学校がうまく繋がるきっかけを、社会教育委員としても考えていこうというようなことで、実際に長田小とか、今度小野中と合同で小野小にも運営協議会が立ち上がる予定だということですので、西山先生がいらっしゃれば、多分すぐ受け入れをしていただけるだろうというところで、具体的にそういう取り組みをやったらどうかという意見が出ました。

例えば、それに関連しての問題というのも大きな課題としてあるので、そういった今の学校ではどうしても手が回らないところを、地域未来塾などをもっと広げて、地域でもそういった子どもたちの支えをできていければいいんじゃないかというところで、お話がありました。

次期会議に繋げたいことということでお話があったのが、今年度の取り組みでもありました、すすく広場の見学に行くなどの、現場を実際に見る学びも非常に大切なので、ぜひそういったものは続けていただきたいというところと、先ほどの学校運営協議会のことを申しましたけども、所管は学校教育課なので、やはりこの会議に学校教育課の職員も出席していただいて、我々がどういう話をしているかということ、学校教育課の職員にもしていただくことも大切だろうということで、出席していただくような方策をとりたいということ。

あとは、教育委員さんたちとの連携として意見交換の会議もぜひ開催をしていただきたいというようなお話がありました。

(議長)

はい、ありがとうございます。

それでは二つのグループに報告をいただきましたが、時間が短かったので十分お伝えできなかつた分については、事務局の方でそれぞれまた話をさせていただくということで、まとめていただき、7月の会議では文書として提出をしていただく形は可能ですかね。

そういう形で次回、皆さんの方に見える形で提供されます。

それでは、その他の項目をお願いします。

— 事務局より配布資料の説明 —

(議長)

それではその他になれば、よろしいでしょうか。

グループでの話し合いは、なかなか時間が足りなかつたかもしれませんが、活発なご意見ありがとうございました。

では事務局に戻したいと思います。

(生涯学習課長補佐)

会議の進行を務めていただきました平山議長、ありがとうございました。

以上を持ちまして、令和6年度第4回社会教育委員会議を終了いたします。

— 終 了 —

上記会議録を調製し署名する。

令和 年 月 日

議事録署名人